

海外留学帰国報告書

- ※ 商学部の協定校留学を終えた学生は、帰国後速やかに帰国報告書を商学部事務室に提出するものとします。
- ※ 報告事項は下記の1～7を参考にし、必要に応じて項目を加除し、この文書（Word ファイル）に直接書き込んで作成してください。Power Point 形式での提出も受け付けます。ファイルと印刷原稿一部を提出してください。字数は自由ですが、全体で3000～4000字程度を目安とします。添付できる資料があれば添付してください。提出物は返却しませんので、必ずコピーを手元に保存してください。
- ※ 報告書（印刷原稿）は学生、教職員が閲覧できるものとします。留学を希望する学生への情報提供を行い、留学制度の改善に役立てることが目的です。
- ※ 報告書の一部は、学部ホームページに公開する場合があります。掲載を望まない場合は、報告書の最後にその旨を記入してください。
- ※ 掲載可能な写真等ありましたら、ご提供ください。

留学先大学名	Hochschule Bremen City University of Applied Sciences
留学者氏名	大下 寛正
留学期間	2018年9月24～2019年7月15
出発時の学年・組・番号	3年5組6番
所属コース	グローバル・ビジネスコース
本報告書の提出日	2019年8月 日

1. 出発前の準備（留学の目的と学習計画、入学許可申請、外国語能力、留学費用、奨学金、健康保険・旅行保険、ビザなど）
2. 協定校での諸手続き
3. 宿舎と日常生活
4. 協定校のカリキュラム・履修した授業、課外活動、留学の成果
5. 帰国準備と帰国後の手続き
6. 商学部学生へのメッセージ（400～600字程度）
7. その他

1. 出発前の準備

留学の目的

ドイツ語力の向上並びに異国での長期滞在を通して知見を広めること

入学許可申請、

商学部事務室に必要書類を提出し、後日英語とドイツ語による面接がありその結果次第で合格かどうか決まります。ドイツ語に関しては基本的な表現を押さえておけば十分だと思います。

外国語能力

英語に関しては基準点を越えてはいましたが、実際他国からの留学生と共に講義を受けてみて自分の英語力の無さを痛感しました。講義中にも臆することなく積極的に発言する他の留学生達に、母語以外の言語をこんなにも流暢に操れるのかと驚かされました。渡航前にもっと英語を使う、話すということをもっとやっておくべきだったと思います。

ドイツ語に関しては、渡航前に独検 2 級を取得し基本的文法等への理解を押さえておくようにしました。加えて、1 年次秋学期より 2 年次秋学期終了まで「ドイツ語：プラスワン」を、3 年次春学期に、駿河台で開講されている「上級ドイツ語」「発展ドイツ語」「ドイツ語会話上級」「異文化理解講座ドイツ語圏」を受講しドイツ語に少しでも慣れようと思い、触れる時間を増やしていました。特に「発展ドイツ語」は、発言の機会も多く実際にドイツ語を使って会話する練習になり、ドイツに行ってから臆することなくドイツ語を使うことができました。

奨学金

私は「JASSO 海外留学支援制度(協定派遣)奨学金」と「明治大学外国留学奨励助成金」から奨学金を頂きました。これらの他にも「トビタテ！留学 JAPAN」などいろいろな制度があるので一度調べておくと良いかもしれません。

保険

商学部事務室から紹介される保険と、現地の保険に加入することになります。商学部事務室から紹介される保険は明大サポートで契約することができます。現地の保険会社は「TK」と「AOK」の 2 社があります。どちらもオリエンテーションウィーク期間中は大学に出先窓口を出しており、説明を聞いて好きな方を選んで契約すると思います。保険料は TK で月々約 100€ほど支払っていました。

ビザ

ビザを申請する際に財政能力証明が必要になりますが、2017 年末までは大使館・総領事館で作成していた経費負担誓約書は現在作ってもらえないようなので、ドイツの銀行口座もしくは日本の銀行で滞在期間に見合った額の残高証明を作ってもらうか、奨学金受給証明書のいずれかをビザ申請の際に提出します。また、現地の保険加入証明が必要になるので保険の契約はできるだけ早く済ませておくと思います。ビザの申請場所は「Bremen Service Universität」で、朝 9 時から営業開始しています

が、いつも人が多いので申請の際には営業開始時間前にはその場にいた方が良いです。

2. 協定校での諸手続き

セメスターが始まる1週間ほど前に、オリエンテーションウィークがあり、講義の登録方法、学生証の受け取り、保険の契約など様々な説明並びに手続きがあります。ブレーメン経済工科大学には、松井先生という日本人の先生がいらっしゃる、日本人留学生の面倒を見てくださいます。また、このオリエンテーション期間中にドイツ語のミニ講座があり渡航前手続きの中で申し込むと参加できます。

3. 宿舎と日常生活

ブレーメン経済工科大学からの受け入れ許可証をもらってからしばらくするとその事務室からメールで「into rooms」という部屋探し用のウェブサイトログインするためのパスワード等が送られてくるので、「into rooms」を通して部屋探しをすることになります。「into rooms」に載っている部屋はほとんど一般家庭の空いている一部屋を借りる形になるのでホームステイに近い形になると思います。部屋探しに関しては、大家さんと直接メールをやり取りするのですが、メールを送っても中々返ってこないことも多々あり気になる部屋があつたらとりあえずメールを送ってみるといいと思います。また、「into rooms」を使わずに「WG-Gesucht.de」などのHSB外のウェブサイトから見つけてくることも可能です。住む場所に関しては、個人的にNeustadtかViertel地区は大学から近く且つ町の中心部にも近いのでおすすめです。

4. 協定校のカリキュラム・履修した授業

日本の大学と同じように、受講したい講義を選んで登録期間中にオンラインで登録するという流れになります。講義は大きく分けて商学系、教養科目系、語学系の3つがあります。ビジネス系の科目からは「Global Marketing」「International Economics」などの、所属コースに合わせた単位振替できるものを選び受講しました。語学からは1学期目に「Deutsch als Fremdsprache B1.2」を、2学期目に「Wirtschaftsdeutsch B2」と「Deutsch als Fremdsprache C1 Präsentation und Kommunikation」を受講しました。特にC1の授業はドイツ語を使って色々なテーマについてプレゼンテーションを行い、又学問的なドイツ語を学ぶことができるのでお勧めです。語学の授業は午後6時、8時からなど比較的夜遅い時間帯に始まるものがほとんどです。加えて、ドイツ人学生とタンデムを行っていました。ドイツに来た主な目的の一つがドイツ語力の向上だったので、空いている時間はできるだけタンデムに充てるようにし、1学期目は7人と2学期目は10人と行っていました。やはり、同じ世代のネイティブから直接ドイツ語を学びドイツ語で会話することにより、学校では学べないドイツ語を耳にすることができきた自然なドイツ語を学べ、毎回のタンデムが新鮮でとても楽しかったです。タンデムを通してドイツ語を楽しく且つ実践的に学べたと思います。

課外活動

Universität Bremenのほうで開講されているスポーツクラブに参加できるようで、周りにも何人かバスケットボールやラグビーをやっている人がいました。また、夏休みなどの長期休暇を利用してブレーメンにある企業でインターンシップを行っている日本人留学生もいました。時間的余裕がある人は取り組んでみるといいかもしれませ

ん。

留学の成果

主な目標であったドイツ語力向上は達成できたのではないかと。ドイツ語は留学前と比べてこの約一年間を通してかなり上達したと思う。また、日本の外に出るのは今回が初めてだったので新しいことばかりであった。何より、今までの自分の世界を広げることが出来たことは一生の思い出である。

5. 帰国準備と帰国後の手続き

帰国前には銀行口座と保険の解約、住民登録の解除が必須です。

セメスターが終わると大学から住民登録解除用の書類がメールで送られてきます。帰国 1 週間ほど前から住民登録の解除ができるようになるので、送られてきた書類を印刷して記入し、**Bürger Service Center** に行き提出しその場で完了します。銀行口座は **Sparkasse** の場合、口座を作った支店ではなく本店に行き解約してもらいます。保険は TK か AOK、選んだ方の保険の営業所まで行って解約したい旨を伝えると解約できます。

帰国後は帰国報告書など各種提出書類をそろえて商学部事務室にて提出しなければなりません。

6. 商学部学生へのメッセージ (400~600 字程度)

ブレーメンに限らず、留学に興味がある人はまず、なるべく早く情報(滞在費はどのくらいかかるのか、語学力含めて何が必要なのか等)を集めるといいと思います。ブレーメンならドイツ語を担当している Kowallik 先生か渡辺先生、もしくは商学部事務室に相談してみるといいでしょう。

今振り返ると、ブレーメンで過ごした一年間は本当に有意義な時間だったと思います。実際に長期間海外に住んでみて改めて文化を含む様々な日本との違いを体感し日本の中にいるだけでは気づけない、分からなかったであろうことが数多くあります。また、ドイツ人はもちろん世界各国からの留学生といった文化的背景や価値観の異なる人々と長期にわたって交流できたことは貴重な経験になりました。

最後に、ブレーメンは都市の中でも比較的小さく、静かで過ごしやすく学生生活を送るには丁度良いと思います。留学の目的は人それぞれあると思いますが、留学に少しでも興味がある人はぜひ挑戦してみてください。